

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

何事も忍耐強く努力し、社会の変化に柔軟に対応する力と、社会貢献できる心の育成を教育目標とし、グローバルな視点をもって地域のコミュニティを支え、社会に貢献できるよう他者と協働するといった教育活動を通じて、一人一人が能動的に学ぶ姿勢を養い、新しい価値を創造できる生徒を育成します。

(2) 教育目標

ア 何事も忍耐強く努力し、あきらめない心の創造 イ 礼節と思いやりに満ちた人間関係の構築と、社会貢献できる心の育成 ウ 社会の変化に柔軟に対応する力と国際社会に向けて積極的に行動する力の推進

(3) 3つのスクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

(ア) 実社会で活動するのに基盤となる学力・人間力・体力 (イ) 知識や体験を状況に応じて活かす能力 (ウ) 自己の意見を発信する能力と他者の考えを理解する力

イ カリキュラム・ポリシー

(ア) 生徒の学ぶ意欲を高めるため、授業改善に努め、生徒一人一人の学力を高める (イ) 3年間を見通した組織的な進路指導計画のもと、生徒一人一人の能力を発揮させる進路実現を図っていく
(ウ) 学校行事やホームルーム活動、生徒会活動、部活動等を通して、主体性、協調性、責任感を高め、心豊かで国際社会を生き抜くたくましい生徒を育成していく

ウ アドミッション・ポリシー

(ア) 学校行事や部活動に積極的に取り組み、学校生活を中心に過ごす意志の強い生徒 (イ) 主体的に授業に取り組み、学力を向上させようとする生徒 (ウ) 規則を守り、将来社会人としてのマナーを身に付けようとする生徒
(エ) 進路実現に向けて、チャレンジし続けようとする生徒 (オ) 自己の可能性を広げるために行動し、社会貢献をしようとする生徒 (カ) 国際社会に積極的に参加しようとする意欲のある生徒

2 中期的目標と方策	3 今年度の取組目標と方策
<p>(1) (目標) 学校運営の積極的な検証・改善と組織力の強化・推進 (方策) 進路指導研究校等の指定を活かし、学校運営の質的向上と組織的な人材育成で中堅層の学校経営参画意識を醸成する。</p>	<p>(1) 学校運営の積極的な検証・改善と組織力の強化・推進 ア 本校のスクール・ミッションや教育目標、スクール・ポリシーを踏まえた学校経営計画を基に、全教職員が「チーム小川」の一員として、計画的・組織的な学校運営を推進する。 イ 分掌・学年・教科間の密接な情報交換により教職員間のコミュニケーションを活性化させ、企画調整会議や職員会議の円滑な運営を通して、課題解決への協働体制の構築を図る。 ウ 若手教員への学習・生活・進路指導、学校運営等に関するOJTを計画的に実施し、教員個々の教育力と組織力の向上を図り、主幹・中堅層を核に組織的な育成支援体制を構築する。 エ 教科・探究学習と学校行事・部活動等の特別活動を本校の教育活動の両輪に位置づけ、その両立を図れるよう、情報共有を徹底しながら教職員が意識を統一して生徒の指導に当たる。 オ 都民から信頼される学校を目指し、体罰やハラスメント根絶、個人情報保護の徹底等、コンプライアンスを遵守した組織的な取組を推進し、サービスの厳正の徹底と事故の根絶を図る。 カ 組織的な学校運営のため全教職員の情報共有を徹底し、業務の整理や分担化・効率化、資料のデジタル化により働きやすい環境を整備し、ライフ・ワーク・バランスを推進する。</p>
<p>(2) (目標) 入学した生徒の学力に応じた学習支援体制の構築 (方策) 教科会と学力分析会を連動させ、英検等外部検定試験を活用しながら、生徒が学習に対して自走できる仕組みを構築する。</p>	<p>(2) 入学した生徒の学力に応じた学習支援体制の構築 ア カリキュラム・ポリシーに基づき、学習サポート委員会を中心に学力向上の取組として講習や補習、分析会や外部検定試験、Y-zemi の充実を図り、教科マネジメントを確立する。 イ 各教科の学カスタンダードの達成に向けた指導内容・方法の改善とともに「新たな教育スタイル」を見据え、教育ダッシュボードや定期考査採点分析システムの有効活用を図る。 ウ アクティブ・ラーナーの育成を目指した協働的な学びの推進や観点別評価のブラッシュアップ、Teams やスタディサプリの活用等により生徒の学力向上に資する実践を進める。 エ 探究的な学びにより、生徒が自己の進路につながる学問的・職業的な課題を自ら設定し解決する活動とアウトプットする機会を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。 オ 全教科で言語能力向上を図り、図書館を活用した読書活動推進、大学入試や外部検定試験に有効な読解力・記述力向上、プレゼン能力育成等の授業実践を計画的・組織的に行う。 カ 学習習慣の定着のため、校内の授業時間外での自主学習の拡大を図る。特に図書館の活用や自習スペースの拡充を具体化し、始業前時間の活用やサマーセミナー等を充実させる。 キ 授業改善や若手教員の授業力向上を図るため、教員間の授業見学や授業公開、校内研修を推進し、英検等外部検定試験やA I、生徒一人1台端末を活用した学習支援体制を確立する。</p>
<p>(3) (目標) 組織的な進路指導体制と指導内容の充実 (方策) キャリア教育3か年計画の質的改善や外部人材・資源を有効活用し、本校ならではの探究の時間を構築して組織的に機能させる。</p>	<p>(3) 組織的な進路指導体制と指導内容の充実 ア 「進学指導研究校」として、グラデュエーション・ポリシーに基づき生徒の実態や大学入試制度等に対応した進路ガイダンス等により、全教職員で統一感を持った進路指導を行う。 イ キャリア教育年間指導計画に基づき、拡大進路部会での進路部と学年との連携を密にしながら進路行事を計画的に実施し、生徒の実社会での自立に必要な能力と態度の育成を目指す。 ウ 「第一志望宣言」として生徒に目標設定させ、面談シートや面談週間等を活用した組織的・個別的・具体的な進路指導を通して、最後まで第一志望を諦めさせない指導を実践する。 エ 学習サポート委員会や定期教科会を中心に、模試や定期考査の分析を通して、データを基にした定点的な学力の全校的な共有を図り、教員の進学指導力や教科指導力向上を図る。 オ 本校独自の「総合的な探究の時間」実施計画に基づき、進路部と学年による探究委員会を中心に産能大学や同窓会、小川サポーターズ、カルペディエム等との連携の定着を図る。 カ 進路部による生徒・保護者への総合型選抜等の入試制度に関する情報発信や教員研修を充実させ、予備校等の外部人材も活用しながら進路に関する最新の情報提供を十分に行う。 キ 3年間を見据えた進路面談の充実を図るため、進路部を中心に面接週間指導の統一やケース会議の設定、総合型選抜の研修等の実施により全校的な進路指導体制の構築を図る。</p>
<p>(4) (目標) 生徒の自主性・自発性を育成する特別活動や部活動の推進 (方策) 生徒の自発的な取組を大切にして達成感・協調性を醸成し、部活動等で継続力・自己肯定感・自尊心を培う。</p>	<p>(4) 生徒の自主性・自発性を育成する特別活動や部活動の推進 ア ホームルーム活動や部活動等の集団活動を通して、望ましい人間関係の構築を図る。充実感や達成感を体験させ、生徒の自信や自尊感情を育成する指導を全教員で実践する。 イ 生徒会や委員会活動を中心に学校行事の運営や協働体制の改善に主体的に取り組ませて内容の充実を図り、生徒の帰属意識の高揚、達成感や自己肯定感を育む指導を展開する。 ウ 部活動加入率を向上させ、生徒が部活動を通して健全な心と身体を育成できるよう組織的・計画的な運営を図り、部活動体験等の生徒募集対策にも積極的に関わりを持たせる。 エ 「部活動ガイドライン」に則り、活動日や回数等、部活動指導の方法を常に点検するとともに、体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶や熱中症予防対策の徹底を図る。 オ 学業と学校行事・部活動の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、「切り替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。 カ 町田市の中学校の部活動地域移行を踏まえ、近隣の小中学生との部活動を通じた交流を図る。地域行事にも積極的に参加・協力させ、地域の小川高生としての所属意識を高める。</p>

<p>(5) (目標) グローバル教育の推進と豊かな国際感覚を身に付けた生徒の育成 (方策) 英語4技能の伸長を図り、外部検定試験や国際交流行事、姉妹校提携や国内外の語学研修等を充実させる。</p>	<p>(5) グローバル教育の推進と豊かな国際感覚を身に付けた生徒の育成 ア J E TやA L Tを活用した英語による英語授業の充実とともに、ペアやグループワーク、I C T等を活用した協働的な学びにより、総合的な英語4技能の着実な向上を図る。 イ 英検全員受検や準会場受検を継続し、英語授業と関連させた受検対策や課題配信の充実により、大学入試等に直結する学習意欲・習慣の喚起にもつながる受検意識の醸成を図る。 ウ 「海外学校間交流推進校」として、国際交流推進プロジェクトを中心に生徒の海外派遣やインドネシア姉妹校との交流、研修旅行の検討等を推進し、国際理解教育の充実を図る。 エ 主体的に学び続ける態度や多文化共生精神の涵養、異なる文化の人々と協働する力を身に付けさせるため、国際交流クラブによる海外生徒向けの伝統文化紹介活動等を推進する。</p>
<p>(6) (目標) 生徒の心身の健康の保持増進と安心・安全な学校生活の実現 (方策) 基本的生活習慣を確立させ、健康維持と体力向上を図り、外部機関と連携しながら生徒支援体制を強化する。</p>	<p>(6) 生徒の心身の健康の保持増進と安心・安全な学校生活の実現 ア 規律正しい基本的生活習慣の確立と規範意識の向上のため、生徒の頭髪や服装等のルールやマナーについて注意深く見守り、全教職員が共通理解した統一的な生活指導を行う。 イ 人権意識を高め、望ましい人間関係の構築と豊かな人間性の育成を図り、いじめ対策委員会や生徒支援委員会を活用し、いじめの未然防止、早期発見・対応に組織的に取り組む。 ウ 都立高校生活指導指針に基づき、全校集会、学年集会、HR活動等で組織的・継続的な生活指導を行い、生徒会や委員会活動等を通じて生徒の自律的な態度の育成を図る。 エ 自転車通学生徒への損害賠償保険加入やヘルメットの着用率向上を具体化し、登下校時のマナーの向上や自転車事故、不審者被害の予防など警察と連携しながら安全指導を行う。 オ 学習活動や特別活動を通して生徒の自己肯定感を高め、教員と生徒の間で信頼関係を築くことにより生徒の些細な変化も見逃さない等、生命に関わる重大事故の防止に取り組む。 カ デジタル化された東京都統一体力テストを実施し、生徒が課題を持って体力向上に取り組み生涯を通じてどんな困難な状況においても自分らしく生きるための意識の向上を図る。 キ 食育指導や教育相談の充実を図るとともに、薬物乱用防止やSNS等の正しい利用に関するセーフティ教室や地域との防災訓練、避難訓練等を通して安全への意識喚起を行う。</p>
<p>(7) (目標) 計画的・継続的・効果的な魅力発信による募集・広報活動の推進 (方策) 本校の特色を明確にし、広報の一層の工夫により、町田地区内外から本校第一志望の受検生獲得を図る。</p>	<p>(7) 計画的・継続的・効果的な魅力発信による募集・広報活動の推進 ア アドミッション・ポリシーに基づき、本校の教育活動を中学生・保護者に的確かつ迅速に情報発信し、本校第一志望の受検生を獲得するために全校で生徒募集対策に取り組む。 イ 学校見学会・説明会や体験授業や部活動体験等を通して入学後のイメージを明確にし、都立高校E X P Oへの生徒参加などあらゆる機会を活用して本校の魅力をアピールする。 ウ 本校の特色や指定校の取組等とともに、文化・スポーツ等特別推薦で求める生徒像などを丁寧に説明することで、本校の活性化や他の生徒の模範となる受検生の確保に尽力する。 エ 情報発信推進委員会と連携してホームページの充実を図り、タイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信する。 オ 学校案内・ポスター・学校紹介動画の作成、SNSの有効活用、塾からの情報収集と塾への訪問など広報活動を組織的・効果的に展開することで入試倍率の確実な向上を図る。</p>
<p>(8) (目標) 生命尊重と人権感覚が磨かれた生徒の育成 (方策) 自尊感情の醸成や豊かな人間性の育成とともに情報共有を密にして自殺予防対策等を推進し、いじめや不登校に早期に対応する。</p>	<p>(8) 生命尊重と人権感覚が磨かれた生徒の育成 ア 計画的に交通安全教室や薬物乱用防止教室を実施し安全に関する注意喚起を行う。日頃から情報の授業やHR等でSNSの功罪やモラルについて指導し、人権感覚を涵養する。 イ 生徒・保護者の悩みに対応するため、専門性のあるスクールカウンセラー等に確実に繋げる対応を行い、生徒支援委員会を中心に問題行動や不登校の予兆の早期把握に努める。 ウ いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施し、いじめ対策委員会を中心に早期発見・対応を心がける。 エ Y S Wやエリアネットワーク等の外部人材も活用し、生徒がS O Sを発信しやすく悩みを受け止める温かな雰囲気づくりを行い、生命尊重や自殺予防に資する教育を推進する。 オ 「都立学校間交流教育」事業を通じて、地域の特別支援学校の拠点校と協力し発達障害等の生徒への通級指導の対応を含め、特別支援エリアネットワークとの連携を充実させる。 カ 18歳成年制度を踏まえ、授業での基本的な知識や消費者として主体的に行動する能力・態度の育成指導や外部講師を活用した主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させる。</p>
<p>(9) (目標) 都民の期待に応える学校づくりの推進 (方策) 情報発信機能を高め、地域との交流機会拡大を図る。教職員のライフ・ワーク・バランスを推進し、都民から信頼される学校を目指す。</p>	<p>(9) 都民の期待に応える学校づくりの推進 ア 学校運営連絡協議会を年3回実施し、地域や保護者の要望や意見を反映した学校運営の透明化を図り、学校評価アンケートの実施結果を次年度以降の学校改善に確実に活かす。 イ 学校危機管理マニュアルを基に、自然災害発生時や避難所としての対応、事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を地域や消防・警察と連携して構築する。 ウ 美化委員会のアイデアを生かした継続的な校内外の清掃活動や教室環境維持により生徒の清掃・美化への意識を高め、地域から愛される安心・安全な学校づくりを進める。 エ 「学校における働き方改革の推進プラン」に基づき、部活動指導員等の有効活用や複数顧問制により部活動指導の負担軽減を図り、教員のライフ・ワーク・バランスを推進する。 オ 年次有給休暇の積極的な取得やテレワークの有効活用など、残業上限が月45時間超過とならないよう注意・喚起を促すなど、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進める。 カ 5日間の学校閉庁日を設定し長期休業期間中等における年次休暇の計画的取得を促す。</p>
<p>(10) (目標) 経営企画室の経営参画意識の醸成と機能の充実 (方策) 予算の執行率の向上と有効活用、施設・設備修繕や増改修を計画的に進め、積極的経営参画型の経営企画室の実現を図る。</p>	<p>(10) 経営企画室の経営参画意識の醸成と機能の充実 ア 年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強化して学校全体としての共通理解を持ち、経営企画室の経営参画意識を醸成して各課題の解決を図る。 イ 自律経営予算の計画的・適正な編成を図り、教員との連携により費用対効果の観点から効率的な予算執行に努め、保護者からの授業料や学校徴収金の収納・執行管理を徹底する。 ウ 都民から信頼される学校経営を目指し、センター執行率を前年度以上にする。また個人情報の管理や会計事故の防止等について、教員と相互にチェックできる体制作りを行う。 エ 生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員や施工業者と連携しながら施設、設備の安全管理や環境整備、点検を実施し、連絡調整や修理等速やかな対応</p>

4 重点目標と方策

重点目標1 上記3(2) 入学した生徒の学力に応じた学習支援体制の構築

重点目標2 上記3(5) グローバル教育の推進と豊かな国際感覚を身に付けた生徒の育成

重点目標3 上記3(7) 計画的・継続的・効果的な魅力発信による募集・広報活動の推進

以上の3点を上記3「今年度の取組目標」の重点目標とし、各方策をもって学校経営にあたる。